

事業概要票
事例NO. 60

事例キーワード

工事影響範囲の最小化

事業名		地方道路交付金事業【道路改築】	工事影響範囲の最小化
事業担当機関		北秋田地域振興局建設部	
事業期間		平成19年度～平成24年度	
実施場所		主要地方道 二ツ井森吉線 北秋田市増沢【増沢工区】	
事業概要	全体事業費	約17億	
	工事概要	道路改良 L=2,400m W=6.0（8.5）m 〔橋梁 L=165.6m含む〕	
	事業の目的	当該路線は、能代市を起点とし北秋田市に至る幹線道路であり、県北部の地域間交流支援を担うとともに、通学路指定路線になっているなど、沿線住民にとっては重要な生活道路となっている。しかし、増沢地域は幅員狭小(Wmin=4.0m)、線形不良(Rmin=20m)で歩道も無いことから、歩行者の安全確保や幹線道路の機能に支障をきたしている(V=30km/h)。また、昭和35年に架設された高長橋は、コンクリートの劣化が激しいうえ鉄筋が露出・腐食しているため、構造上危険な状態となっていた。 幹線道路としての広域的な機能と、生活道路としての安全性を早急に確保するため、道路整備を行うものである。	
環境配慮の内容	道路計画のルート選定において、環境配慮の事項を整理した。通常は現道を広げる現道拡幅案と別路線に新たな道路を通すバイパス案とで比較されるのが一般的であるが、本ケースにおいては、1つのバイパスに既存の財産（農道）を利用した案が入っている。このような状況の中、環境配慮の視点において、以下の事項を挙げ検討した。		
	1案：現在の道路を広げる → 工事中は、沿線の住民に騒音・振動といった影響がある。現道は大型車混入率が高く、工事完成後には、道路幅員が広がり交通の利便性が良くなるため、農道を利用している大型車交通量も転換されると推定されることから供用後において沿線住民への排気ガスの影響が懸念される。 2案：集落を避けながら周辺に道路を造る → 盛土区間がほとんどであるため、盛土材料が必要となる。盛土材は、自然から生み出されている土砂が元となっている他、土地を切り開くこととなるため、自然環境に影響が出る。 3案：農道を利用しながら道路を造る → 切土区間と盛土区間の土工バランスが良いため、土砂処理は、ほぼ自工区内で処理できることから建設リサイクルの促進が図られる。農道利用区間があるため、新たに改変する道路敷地が30％ほど縮減されることから地形の改変を極力抑え自然環境への影響を小さくできる。 ※検討結果、本道路計画においては、環境配慮の視点及び他の条件や経済比較もふまえたうえで最終的に3案を採択した。		
施工後の状況	・沿線住民への騒音・振動といった影響を抑えた。 ・沿線住民への排気ガスの影響を抑えた。 ・建設リサイクルの促進が図られた。 ・地形の改変を極力抑え、自然環境への影響を小さくした。		

図面、写真、説明

